



奈良女子大学同窓会佐保会

## 滋賀支部だより

平成 29 年 2 月 10 日  
佐保会滋賀支部

厳しい寒さが続きますが、皆様お元気でお過ごしのこととおよろこび申し上げます。

今回の支部だよりでは、総会のご案内をしています。その他には、おうみ佐保塾の開催報告などを載せています。佐保会報 194 号、ならじよ Today vol. 27 とあわせてお読みください。

### 平成 29 年度佐保会滋賀支部総会のご案内

日時：平成 28 年 6 月 4 日（日）10：30 より（受付 10：15）

会場：琵琶湖ホテル 懇親会費：5,000 円 本部会費：1,500 円 支部会費：1,000 円

総会・講演会・懇親会

講演会 太宰治風アレンジとは？ —「葉桜と魔笛」を読み直す—

講師：木村小夜氏



プロフィール：京都市出身。1985（S60）年 3 月に奈良女子大学文学部国語国文学科卒業。同大学大学院文学研究科（修士課程）修了後、1991 年に人間文化研究科比較文化学専攻（博士課程）単位取得満期退学。同大学文学部助手を経て、1992 年より福井県立大学勤務。1994 年、学位取得（博士（文学））。現在、同大学学術教養センター教授。著書に、『太宰治翻案作品論』（2002、和泉書院）、『太宰治の虚構』（2015、同前）。他に、小川未明・芥川龍之介の童話、菊池寛・三島由紀夫・森見登美彦等の短篇に関する論考あり。

### 木村さんからのメッセージ

太宰治は自身の著作にとってネタとなりそうなものならば、書き手がプロ・アマであることを問わず、あらゆるジャンルの文章を食欲に取り込む作家でした。「走れメロス」や『お伽草紙』のような典型的な翻案・パロディ作品の周辺に、こうした何らかの素材をもつ作品が多々あり、現在もそれらの素材は発掘中なのです。

ここではその具体例として、従来ほぼオリジナル作品と見なされてきた短篇「葉桜と魔笛」と、その数年前に掲載された先輩作家・尾崎一雄の「ささやかな事件」とを比較し、太宰のアレンジの特徴や二人の資質の違いを検討してみます。これらの作品を掲載した若者向け文芸雑誌『若草』は太宰との縁も深く、ここから彼は他にも様々な創作のヒントを得ていたようです。

限られた時間ではありますが、先行作品が素材となって料理されていく醍醐味、作品を読み解く面白さを、皆様と共有できれば幸いです。

※お時間があれば、事前に「葉桜と魔笛」（青空文庫・『女生徒』角川文庫等）をお読みになってみてください。その上でさらにお時間に余裕があれば、「ささやかな事件」（『尾崎一雄全集 第一巻』筑摩）もどうぞ。様々な発見があつてドキドキします。

★滋賀支部ホームページより、太宰治「葉桜と魔笛」（青空文庫）にアクセスしていただけます。事前にお読みいただき、ご興味を深めていただくのも一興かと存じます。

## 第 15 回おうみ佐保塾（公開講座）

### 『松尾芭蕉の世界を旅する』

～おくのほそ道・近江の芭蕉～



9月27日（火）午後1時半より草津市まちづくりセンターにおいて第15回おうみ佐保塾を開催しました。一般の方も含めて45名の方々が参加されました。講師は第14回につづき、いかいゆり子氏。前回同様、いかい氏が各地で開かれている講座の受講生の方たちも参加されて、講義後の質疑応答も活発に行われました。

三重県伊賀市に生まれた芭蕉は、江戸へ出て俳諧師となります。それなりに名声も得、また独自の句風（蕉風）を確立しつつありましたが、俳諧師であることに疑問を抱き、奥の細道の旅に出ます。みちのくの歌枕を巡り俳人として一皮むけて帰ってきた芭蕉ですが、それ以前も含めて、およそ8年の間に8回も近江を訪れ、最も長い時は半年余りも滞在し、生涯で詠んだ句の一割を超える102句にも及ぶ句を近江で詠んでいます。加えて、遺言で義仲寺を永眠の地に指定しました。

なぜ、芭蕉はそれほどまでに近江を愛したのか。その疑問が「近江の芭蕉」誕生のきっかけとなったと、いかい氏は言われます。

講義では、奥の細道から、中尊寺、毛越寺、立石寺、3か所、3句の句碑、そして、近江にある61の句碑の中から印象に残った10か所について、写真、地図を示されて、その場所の印象も交えながら詳しく話して頂きました。

そのお話を伺うに、近江の美しい風景、門人をはじめ土地の人々との暖かい心の交流、この地で無念の死を遂げた木曾義仲への思いなどが、芭蕉を近江に惹きつけたのではないかと思われました。

「近江の芭蕉」を手に、近場から句碑巡りをしてみたいものです。



## 第 16 回おうみ佐保塾（現地探訪）

～ 湖族の町堅田をたずねて ～

10月21日（金）、堅田にて第16回おうみ佐保塾・現地探訪を行いました。お世話係の役員を含めて33名の受講生が、講師のいかいゆり子氏、現地ガイドの本田栄子氏のご案内をいただき、穏やかな秋の一日を有意義に過ごさせていただきました。

芭蕉の名句「病雁の…」の句碑他がある本福寺見学を皮切りに、宝井其角寓居跡、一休和尚と芭蕉句碑で知られる祥瑞寺、琵琶湖を借景とする居初家庭園、芭蕉ゆかりの十六夜公園を経て、湖族の郷資料館にて昼食タイム。午後は殉教者を祭る光徳



本福寺前



居初氏庭園

寺、高名な浮御堂を有する満月寺を巡り、その浮御堂のそばにある湖中句碑と同じものが拝見できる浪乃音酒造・余花朗にて、全行程を終了いたしました。

居初家庭園ではご当主が自ら丹念な解説をしてくださいましたし、光徳寺ではご住職から心的な背景まで伝わってくるお話をいただき、余花朗では予定に無かったお座敷まで特別にご案内いただきました。いかい氏のエネルギーで学識溢れる解説、経験豊かな本田氏の分かり易いガイドに加え、こうした現地の皆様のご親切なご案内に支えられ、大変良い勉強が出来た一日であったと思います。ご参加の皆様からも、大層お喜びいただきました。

座学だけでなく現地を訪ねることの大切さは、例えば芭蕉が湖上を移動した距離を目視する等、文学の背景を知り得た時に感じられるものですが、今回の探訪に参加して、文学の解釈の上でも重要であると痛感しました。不学な私が単なる挨拶句であると感じていた「朝茶飲む僧静かなり菊の花」ですが、まさにこの句が詠まれた地で、しかも季節も秋に鑑賞したこの日、何とも言えぬ味わい深さが沸き起こって来たのです。ご案内いただいたお二人のご指導と、ご参加の皆様の向学心溢れる雰囲気を支えられた、貴重な体験でした。



浮御堂

この日に鳥取で大きな地震があり、私たちも堅田で震度3の揺れを感じました。鳥取の皆様への恐怖とご苦勞を思い、胸が痛みます。心よりお見舞いを申し上げます。



十六夜公園

☆彡コラム始めます☆彡

皆さまにより楽しんでお読みいただける「支部だより」にするために、次号よりコラム欄を設けることにいたしました。

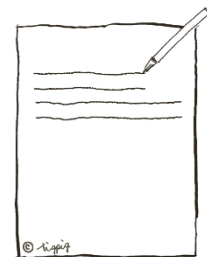
内容は、

- ① 皆様からの御寄稿
- ② 奈良女の謎を追う（家庭教師における、ガバ、ガバ男、ガバ子の起源など）
- ③ HP掲載作品の作者が語る制作秘話

などなど。その他、盛沢山の予定です。

乞う、ご期待！

投稿は支部長までお願いします。



## お悔やみ

ご冥福をお祈り申し上げます

山崎千枝 姉 (文・昭和8年卒) 平成28年11月12日 逝去  
藤崎きぬ 姉 (家・昭和9年卒) 平成28年12月22日 逝去  
水谷久子 姉 (理・昭和29年卒) 平成29年1月18日 逝去

## お知らせ

### おうみ佐保塾

平成29年度のおうみ佐保塾は、秋に安土城考古博物館での講演・見学を企画しています。  
詳しい日程が決まりましたら、総会案内とともにお知らせし、ホームページに掲載します。

### 受賞のお知らせ

松本匡代さん(S60 理物)の小説「天下～律義者の十五年～」が第66回滋賀県文学祭の小説部門で大賞の「芸術文化祭賞」を受賞されました。

### 本部行事への参加のおすすめ

3月15日(水) 万葉の旅 伊勢方面 / 3月24日(金) 卒業式・卒業生歓送会 /  
4月1日(土)～7日(金) 雛祭り展 / 4月4日(火) 入学宣誓式 /  
5月20日(土) クラシックコンサート

佐保会本部では、多彩な行事(佐保塾・講演会・コンサート・バザー・史跡めぐりなど)を行っています。思いがけない方との再会もあるかもしれません。詳しくは佐保会ホームページをご覧ください。

## お 願 い

- ・皆様の作品をお寄せください。ホームページ・支部だよりに掲載させていただきます。
- ・会員の皆様の受賞の情報などご存知でしたらお知らせください。広くご紹介したいと思います。  
投稿・情報のご提供は支部長までお願いします。
- ・3月15日までに平成28年度の会費納入をお願いいたします。未納の方には払込取扱票を同封してありますのでできるだけゆうちょ銀行のATMで払い込みください。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方はATMを利用して口座間振替(月3回まで手数料無料)のご利用をお願いいたします。既に払い込み済みの場合はご容赦ください。
- ・住所・電話番号などを変更された方は支部長までご連絡ください。
- ・滋賀支部ではホームページを開設しています。「佐保会滋賀支部」でご検索ください。

まだまだ寒さが続きます。お互いに健康に留意して暖かい春を迎えましょう。  
総会、おうみ佐保塾でお会いできるのを楽しみにしております。

